

申請者名

(一社)美園タウンマネジメント

事業全体概要図まとめ

「美園」のまちを使いこなすためのスマホ教室

(2.5時間/回 x 5回/セット x 4セット)

定員 20名 (60才以上のスマホ初心者で5回/セットに出席できる方)  
 支援員1名+アシスタント4名+リモートからの調査支援1名(+自治体関係者1名)

「美園で楽しく暮らしていくために必要なデジタルリテラシーをつけるだけでなく、  
 同じまちの「仲間」を作るためのスマホ教室」

コマ数 実時間数 20名対象合計50時間 (7-8月/9-10月/11-12月/1-2月コース)  
 対象コマ数 2コマ/回 x 5回/セット x 4セット = 40コマ  
 (20名が全員参加した場合は80コマとなるが、安全を見て40コマと想定)

- 【ゴール】
- 1.最終回のまち歩き準備(地図/時刻表/事前調査)し、まち歩きの様子を自らチームのみんなに報告できるようになる
  - 2.このチームのLINEグループを教室終了後も残し、地域コミュニティの核として機能させ続ける

2018年度美園地区実施例

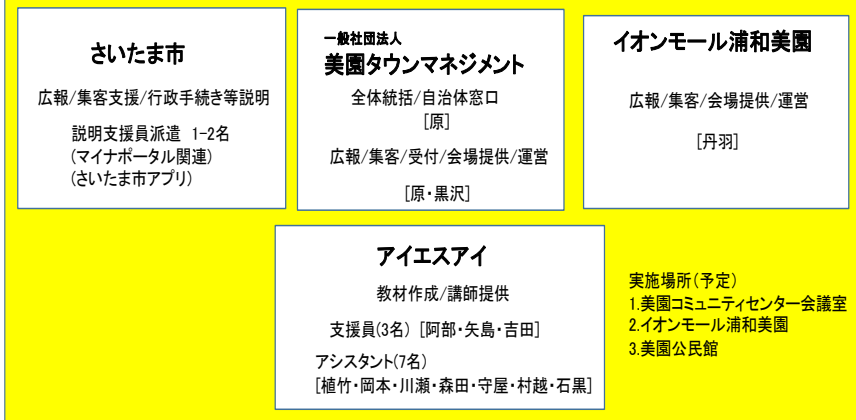


2019年度美園地区実施例



体制図

利用者向けデジタル活用支援推進事業(地域連携型)体制図



2020年度横瀬町実施例

	実施日	実施場所	実施内容
第1回	令和2年12月9日(水)	Area 898	スマートフォン・アプリの基本体験会
第2回	令和2年12月16日(水)	Area 898	スマートフォン・アプリの基本勉強会
第3回	令和2年12月23日(水)	Area 898	日常アプリ・コミュニケーションツール利用体験
第4回	令和3年 3月24日(水)	Area 898	「横瀬町の使わないともったいない!!!アプリ」の利用方法
第5回	令和3年 3月26日(金)	Area 898	横瀬町歩きレポート発信体験とマイナポータル体験

全体合計 セミナー実施総時間 50時間 デジタル活用支援推進事業対象コマ数 4セット合計40コマ

基本講座	電源の入れ方等	電話のかけ方等	アプリ等	ネットの使い方等	メール等の使い方	地図アプリの使い方	SNSの使い方	オンライン会議	安心・安全
実施コマ数	2	4	4	5	2	2	13	0	2

応用講座	マイナンバーカード	マイナポータル	マイナポイント	e-Tax	オンライン診療	地域オンライン行政
実施コマ数	1	2	1	0	1	1

## 講習会等の実施計画

## カリキュラム

- 第一回 30分 さいたま市挨拶・自己紹介・カリキュラム/スケジュール説明  
 60分 電源の入れ方、ボタン・タッチ操作、電話のかけ方などの基本操作を行い、受講者のレベルチェックを行う  
 [電源の入れ方、ボタン操作など]x0.5コマ+ [電話のかけ方、カメラの使い方]x0.5コマ  
 60分 電話帳・メッセージ・メール・カメラの使い方などの基本機能を使う中で、受講者のレベルチェックを行う  
 [電話のかけ方、カメラの使い方]x0.5コマ+ [メールの使い方]x0.5コマ
- 第二回 30分 受講者のレベルと所有する機種によりチーム分けを行い、チームごとに前回の復習を行う  
 60分 アプリとは何かを説明し、アプリの落とし方(ストア/QRコード)を学ぶ（後に使うLINEの導入状況確認も同時に行う）  
 [アプリのインストールの方法]x1コマ  
 60分 インターネットの使い方の学習をUDCMiWeb、さいたま市行政手続き、オンライン診療などを題材に行う  
 [インターネットの使い方]x0.5コマ+ [地域におけるオンライン行政手続]x0.25コマ+ [オンライン診療]x0.25コマ
- 第三回 30分 LINEの使い方-1 利用登録確認、友達登録練習(QRコード/招待メッセージ)により受講生オープングループを作る  
 [LINEなどSNSの使い方]x0.5コマ  
 60分 LINEの使い方-2 文字入力練習(音声・手書き含む)を兼ねたグループトーク/電話/ビデオ通話  
 [LINEなどSNSの使い方]x1コマ  
 60分 LINEの使い方-3 LINEでの写真・動画の撮り方、送り方、グループとオープンチャットの違いなど  
 [LINEなどSNSの使い方]x1コマ
- 第四回 30分 地図アプリ、時刻表アプリの体験とネットショッピングアプリ、キャッシュレスアプリなどの紹介  
 [地図アプリの使い方]x0.25コマ+ [インターネットの使い方]x0.25コマ  
 60分 次回街歩きについての地図・時刻表・インターネット検索での下調べとメール/LINEでのチーム内連絡の練習  
 [インターネットの使い方]x0.5コマ+ [LINEなどSNSの使い方]x0.5コマ  
 60分 マイナンバーカード(e-Tax・健康保険証)、マイナポータルの使い方体験（カード未保有者には発行手続きの説明）  
 [マイナポータル活用方法]x0.5コマ+ [マイナポイント利用方法]x0.25コマ+ [マイナンバーカード申請方法]x0.25コマ
- 第五回 30分 まち歩き注意事項説明と安心安全なスマホの使い方/エチケット  
 [安心・安全なスマートフォンの使い方]x0.5コマ  
 90分 実際に街を歩き、気が付いたこと、感想を情報発信(LINE/メール/撮影)する  
 30分 情報発信(LINE/メール/撮影)したものを準備したもの(地図・時刻表・インターネット検索)を含め発表する  
 [LINEなどSNSの使い方]x0.25コマ+ [地図アプリの使い方]x0.25コマ

## 講習会等の実施計画

### [背景と取り組み方針]

さいたま市美園地区では、一般社団法人美園タウンマネジメント（以下、美園TM）の自主事業として、2018年度、2019年度とそれぞれ1クラスずつのコースをIBM OBおよび関係者による高齢者向けスマホ教室として実施した。2019年度には、健康セミナーを実施し、その中で個別スマホ相談会も実施。また、アイエスアイは事業内で講師をしたIBM OBを中心にメンバーを集め、事業として、横瀬町で2018年度、2020年度にそれぞれ1クラスずつの高齢者向けスマホ教室を行なった。

「高齢者に多いデジタルデバイドを解消する」ことのみを当初想定していたが、高齢者はスマホを使いたいのではなく、スマホを使って色々な楽しみを得たり、困りごとを解消したいのであるから、スマホの使い方教室だけでなく、「からだ(身体的)とこころ(社会的)とおかね(経済的)の健康セミナー」を並行して行うことが必要であると考え、2019年度にスマホ教室と健康セミナーを実施したところ、大変高評価であった。(参考資料：美園ハッピープロジェクト参照)

デジタルデバイド解消のためには、デジタルを使ったらどのような良いことがあるのか、自らの身体的社会的経済的健康を維持増進していくためにデジタルはどのように役立つのかということを実体験してもらうことが必要であり、そのための一連のスマホ教室を開催し、その勉強会の仲間がコミュニティとなり、さらにクチコミで仲間が増えていくことを最終の目的としたスマホ教室/健康セミナーを実施したい。

2020年度はコロナ禍のため、スマホ教室と健康セミナーを開催することができなかったが、2021年度は、ICTリテラシーの向上によって、デジタル化の進むコミュニティサービスを使えるようにするために「美園」のまちを使いこなすためのスマホ教室を行い、並行して「からだ(身体的)とこころ(社会的)とおかね(経済的)の健康セミナー」を実施することを想定している。また、適宜、当事業関連の質問相談会は個別に実施を予定している。

実施内容は、2018年度/2019年度の美園地区での実施内容をもとに、2020年度に埼玉県秩父郡横瀬町でアイエスアイが実施したICT教室の実施計画を参考としつつ、事業内容を組み立てている。

## 講師を確保・養成・管理

美園地区では、2018年度、2019年度とそれぞれ1クラスずつのコースをIBM OBおよび関係者による高齢者向けスマホ教室として実施している。2019年度には、健康セミナーを実施し、その中で個別スマホ相談会も実施した。また、アイエスアイの事業として、横瀬町で2018年度、2020年度にそれぞれ1クラスずつの高齢者向けスマホ教室を実施した。

この合計4コース(延時間数65時間/コース参加者70名)をIBM OBである阿部/吉田、パソコン/スマホ教室指導者である矢島がそれぞれ資料作成と講師を行っており、十分な経験を持っている。また、2019年度に講師として経験していた吉田がデジタル支援員の教育を受けた上で、講師として活動する予定である。アシスタント(7名)もこれまでの4クラスの中で経験を積んでおり、このうち植竹はかも今回デジタル支援員の講習を受講させたい。

基本方針として、受講生の中から翌年度のアシスタント、将来のデジタル支援員を養成することで、地域の中で継続的に実施できるようにすることを目指しており、2018年度のアシスタント1名が既に2019年度のアシスタントとして活躍している。

アシスタント募集に関しては、2021年度実施予定コースには充足しているが、2022年度以降の拡大を想定すると、近隣の教育機関(浦和大学他)の学生に協力を求めていくことも計画している。

らくらくスマホ(ドコモ)、iPhone(イオンモバイル)、アンドロイド(楽天モバイル)の3機種をスマホ教室用にレンタルし、講師が日常的に使うことで、机上の知識だけでなく、操作性を含めたわかりやすい指導ができるように計画している。

教材は、最新の市販教材を副教材として用い、受講中は具体的な画面での具体的な操作を行うための教材を毎回作成し、実際に受講生が自分のスマホを操作する実技ができるように推進する予定である。

また、毎回勉強会のアンケートをもとに講師・アシスタントの反省会を行い、次回にどの受講生にどのようなことをすべきかを考えることを通じて、受講生の満足度向上を図るとともに講師・アシスタントのスキル向上を行なっている。